

10月号

学校教育目標

ゆたかな子 たくましい子 かしこい子



東大成小だより

さいたま市立東大成小学校

令和4年 10月1日

ホームページ:<http://higashionari-e.saitama-city.ed.jp>

Te1 663-3210

Fax 663-9883

覚えることと考えること ～反復練習の大切さ～

校長 岡田 健彦

最近、私が業間休みと昼休みに校庭の遊具周辺に生えた雑草を取り除いていると、子どもたちが集まってきて、一緒に手伝ってくれます。このときに、クラスや家でのことなど、笑顔で話してくれます。子どもたちは、チャイムが鳴ると、満たされた表情で教室に戻っていきます。自分のことを聞いてもらえる嬉し気持ちになるのかなと思うとこちらも笑顔になってきます。

さて、本校にはかつて太鼓クラブがあり、教員と地域の方で指導していました。現在、楽譜やたたき方の記録は、残っておらず、指導者による伝承指導だったとのこと。「伝承」を検索すると、「ある集団のなかで古くからある慣習や風俗、信仰、伝説、技術や知識などを受け継いで後世に伝えていくこと」(フリー百科事典)と書かれています。江戸時代、寺子屋では「読み」「書き」を中心に「そろばん」や世間の風習などを教え、庶民の日常生活に必要で役に立つ知識と技能の習得に力が置かれていました。また、「往来物(おうらいもの)」と呼ばれる本を教科書としてことばや地理、職業別の基本的な知識を学んでいました。現在のようにコンピュータや記録メディアはありませんので、当時の学び方は、口頭での伝承を聞き取って覚える、紙に書き写して覚える、書いてあるものを読んで暗唱するなどでした。現在でも、古典落語や歌舞伎、能などの古典芸能は、師匠からの伝承ですが、それと同様です。

覚えること(暗記)は、その速さや記憶の量が一人ひとり異なります。漢字や九九、英単語をすぐに覚えられる子がいる一方、なかなか覚えられない子もいます。覚えるのに時間がかかる子は、苦しくても時間をかけて反復練習をすれば克服できますので、あきらめずに励ましつつしっかりと知識を習得させていくことが重要です。一人ひとりに応じた学びを支援することが大切です。

ところが、本校では、覚えるべきことが習得できていない子がみられます。全教員で全国学力学習状況調査の結果を詳しく分析しました。すると、細かな課題が明確になりました。その中でも私が早急に改善すべきと考えていることは、基本的に覚えておくべき「知識及び技能」が十分とは言えないことです。ですから、それを生かして考えたり判断したり表現したりすることが難しいのです。このことから、やはり、繰り返し覚えることは、とても大切なことであるとあらためて認識します。それが、考えるもととなるからです。

太鼓の練習のみならず、ピアノや習字などのお稽古事は、苦しくても何度でも練習すること、すぐに結果は出なくてもあきらめずに基礎・基本を身に付けることがその後の伸びに大きく左右します。教科学習も同様のことが言えるのではないかと考えます。本校の課題である無回答率の高さは、知識の確実な習得とGRID(最後まであきらめずにやり抜く力)に課題があると分析しています。このことは、学校のみならず、家庭とも連携していくべきことで、あらためて、学校運営協議会でも取り上げてまいります。